

## 令和7年度学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校生徒は礼儀正しく、意欲を持って何事にも真摯に取り組むが、一方でさらなる自主性、主体性が望まれる状況にある。そこで、生徒が自分の能力・適性等を的確に把握し、高い目標を掲げ、意欲的に学習活動や学校生活に取り組むことを促す取り組みを継続している。

重点項目「学習活動」では昨年に引き続き『自学・自楽する18歳へ』と、学びと成長のウェルビーイングの達成」を重点課題として設定した。3年後に生徒評価が100%になることを目標とし、今年度は3年目であった。授業に対して主体的に参加したか、自主的な学習について自分自身の成長を実感できたかなどの項目においてアンケート調査を行った結果、目標の100%には届かなかった。各項目は微増、または高い数値で推移していたものの、一方で自らの成長を感じていない生徒も一定数存在する。3年間を通した指導体制を今一度振り返る必要がある。学校関係者からは生徒が主体的に参加できる授業体制を学校として打ち出すことの重要性を指摘いただいた。

重点項目「学校生活」では2つの重点課題を設定した。重点課題「基本的生活習慣の改善」では服装・頭髪について生徒が主体的に判断して行動できるよう教職員との対話を重ねていくこと。スマートフォンを利用したSNSでの個人情報の正しい取り扱い。そして自転車利用時のヘルメット着用率の向上を目指した。服装選択制の試行については、生徒の選択肢が増え、好ましいとの評価をいただいた。ヘルメットの着用率には課題を残しており、自転車利用者の意識改革が課題である。重点課題「健康的な環境づくりに努める知識や能力の向上」では、環境検査に基づいた清掃の改善を評価していただいた。環境作りが健康作りにつながるという助言もいただいた。

重点項目「進路支援」では「生徒一人ひとりの適性や能力を引き出す学習・進路指導」を重点課題として、自ら学ぶ集団作りと進路目標の設定を目指した。目標までは届かなかったが、生徒の意識が向上していることは確認できた。また、進路目標の設定についても、大学進学は社会への入り口であり、通過点である。大学で様々なことにチャレンジしてほしい。そのために生徒に対して進路意識を醸成しようとする試みは重要であるとの評価をいただいた。

重点項目「特別活動の充実」では「非認知能力（10の力）を高める特別活動」を重点課題とし、工夫を凝らしたホームルーム活動の企画立案や行事への主体的な参加を促した。10の力より抽出した6つの力の伸長を達成目標としたが、生徒の自己評価によると、各行事が生徒の成長機会となったことがうかがえる。行事における生徒の取り組みと校風に根ざした生徒の気風に対して評価いただいた。

重点項目「探究活動の充実」では「探究的学習の深化と更なる進化」を重点課題とした。10の力を利用し、「対話」と「協働」的な学びにより深められる「創造性」を生徒自身が評価した。9割以上の生徒が成長を実感する結果となった。もう一つの「考えるための技法」に関して、外部と連携して新たな手法の考察と改善」を目指すことだったが、校外研修に多くの教員を派遣したこともあり、数値の上では目標には届かなかったものの、次年度に期待できる結果となった。未来〇学など、新たな試みが進み始めたところであり、長期的な視点からの評価が必要であると考えられる。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

どの取り組みにおいても教員同士の、より深い共通理解と意識の向上が必要であることがわかった。何を利用して、どんな規準で、どのような力を育成するかという命題を、私たち教員が相互理解することが肝要である。今後ますます主体的・自主的な学習や行事への取り組みが重視されるのはもちろんのこと、「非認知能力（10の力）」を活用した生徒の育成も、これまで以上に促進していきたい。

(様式3)

### 8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和7年度 富山高等学校アクションプラン -1-

重点項目	学習活動																																																																																																																					
重点課題	「自学・自楽する18歳へ」と、学びと成長のウェルビーイングの達成																																																																																																																					
現 状	<p>本校では、「発展的未来に貢献する人間の育成」を目指し、進路実現と、卒業後のさらなる飛躍の土台となる資質能力の育成につながる教育を展開している。学習活動においては、授業の充実を図るとともに、生徒の自主的な学習が大切となってくる。「授業」に関しては、10年以上にわたり「学び合い」「ICT活用」など、手法や授業展開の工夫に重点を置いて取り組み、成果をあげてきた。今後はさらに、生徒自身がその授業に「受け手」ではなく「学びの創造者」としての意識をもって臨むことができるか、それをいかに促すことができるかを重点課題とし、生徒の一層の能力伸長につなげたい。</p> <p>また、生徒にとって学びと成長のウェルビーイングの向上のため、富山高校ではぐくむ10の力のうち、特に「教養(既存の知識を組み合わせ新しい知見を得て、未来を予測する)」、「生活マネジメント(目標を見据えて自己の行動、生活マネジメントをする)」を伸長させるための教育活動を行う必要がある。今までも、生徒面接などを行っているが、最終的に生徒が自ら考えて行動ができるように指導を工夫する必要がある。</p>																																																																																																																					
達成目標	<p>1 「授業」について:主体性を育む授業の実施と、授業を活かす生徒の意識の確立</p> <p>①生徒による授業参加の自己評価 「学び合い」や「教え合い」、「振り返り」などの活動を自らの学びの場として活かすことができた生徒の割合が100%となること。</p> <p>②授業に関わる事前/事後課題への取り組み その授業を効果的に受講するために課された課題への取り組みが100%となること。</p> <p>①、②ともに、9月、1月に実施する学習生活実態調査時に生徒アンケートを実施する。各項目が、3年後に100%となることを目指す。</p>	<p>2 学びと成長のウェルビーイングの向上:富山高校で育む10の力</p> <p>①教養 ルーブリックの目標基準が3以上となる生徒の割合が65%以上となること。</p> <p>②生活マネジメント ルーブリックの目標基準が3以上となる生徒の割合が60%以上となること。</p>																																																																																																																				
方 策	<p>1 教師の「授業構想」を基本としながらも、授業力の向上を図るとともに、生徒間、生徒教師間の対話的な学びを促進する。</p> <p>2 担任を中心とした個別面談を年間7回程度以上実施し、特に、学習に困難を感じている生徒や工夫が必要な生徒に対しては、生徒に寄り添いながら、ウェルビーイングの向上が図れるように、対話的に指導を行う。</p> <p>3 進路学習係と担任・教科担当者との連携において、生徒が家庭学習に主体的に取り組める適正な課題の質および量を設定し、細かく調整するようにする。また、その際には授業と学習課題の有機的な結びつきを高めるとともに、実態としての個別最適化が実現されるように工夫する。</p> <p>4 働き方改革の推進するとともに、教務規程や成績評価の業務の見直しを通して、教員自身が「自学・自楽」し、ウェルビーイングを体現する生き方、学び方の価値観を再構築する時間を創出する。</p>																																																																																																																					
達成度	<p>1 4段階評価(とてもできた・できた・あまりできなかった・まったくできなかった)のうち高評価(とてもできた・できた)を回答した生徒の割合</p> <p>①生徒による授業参加の自己評価</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="4">とてもできた</td> <td colspan="4">できた+とてもできた</td> </tr> <tr> <td></td> <td>昨年末</td> <td>9月</td> <td>1月</td> <td></td> <td>昨年末</td> <td>9月</td> <td>1月</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td></td> <td>25.1%</td> <td>28.6%</td> <td>1年</td> <td></td> <td>93.3%</td> <td>93.1%</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>21.4%</td> <td>20.4%</td> <td>20.0%</td> <td>2年</td> <td>92.6%</td> <td>85.0%</td> <td>93.0%</td> </tr> </table> <p>②授業に関わる事前/事後課題への取り組み</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="4">とてもできた</td> <td colspan="4">できた+とてもできた</td> </tr> <tr> <td></td> <td>昨年末</td> <td>9月</td> <td>1月</td> <td></td> <td>昨年末</td> <td>9月</td> <td>1月</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td></td> <td>29.6%</td> <td>32.9%</td> <td>1年</td> <td></td> <td>83.0%</td> <td>84.0%</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>20.5%</td> <td>22.1%</td> <td>17.0%</td> <td>2年</td> <td>73.3%</td> <td>76.5%</td> <td>74.3%</td> </tr> </table> <p>※昨年末はR6年度1月実施(2年は当時1年)</p>	とてもできた				できた+とてもできた					昨年末	9月	1月		昨年末	9月	1月	1年		25.1%	28.6%	1年		93.3%	93.1%	2年	21.4%	20.4%	20.0%	2年	92.6%	85.0%	93.0%	とてもできた				できた+とてもできた					昨年末	9月	1月		昨年末	9月	1月	1年		29.6%	32.9%	1年		83.0%	84.0%	2年	20.5%	22.1%	17.0%	2年	73.3%	76.5%	74.3%	<p>2 ルーブリックの目標基準が3以上となる生徒の割合</p> <p>①教養</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>昨年末</td> <td>4月</td> <td>6月</td> <td>9月</td> <td>12月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td></td> <td>50.8%</td> <td>43.2%</td> <td>52.6%</td> <td>52.2%</td> <td rowspan="3">12月 全学年 64.9%</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>50.0%</td> <td>45.1%</td> <td>54.5%</td> <td>57.0%</td> <td>64.4%</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>60.6%</td> <td>64.0%</td> <td>67.1%</td> <td>73.0%</td> <td>78.8%</td> </tr> </table> <p>②生活マネジメント</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>昨年末</td> <td>4月</td> <td>6月</td> <td>9月</td> <td>12月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td></td> <td>33.8%</td> <td>30.5%</td> <td>43.1%</td> <td>44.2%</td> <td rowspan="3">12月 全学年 56.9%</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>42.1%</td> <td>28.7%</td> <td>44.6%</td> <td>56.6%</td> <td>54.6%</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>50.4%</td> <td>57.2%</td> <td>62.2%</td> <td>69.9%</td> <td>72.4%</td> </tr> </table> <p>※昨年末はR6年度1月実施(2年は当時1年、3年は当時2年)</p>		昨年末	4月	6月	9月	12月		1年		50.8%	43.2%	52.6%	52.2%	12月 全学年 64.9%	2年	50.0%	45.1%	54.5%	57.0%	64.4%	3年	60.6%	64.0%	67.1%	73.0%	78.8%		昨年末	4月	6月	9月	12月		1年		33.8%	30.5%	43.1%	44.2%	12月 全学年 56.9%	2年	42.1%	28.7%	44.6%	56.6%	54.6%	3年	50.4%	57.2%	62.2%	69.9%	72.4%
とてもできた				できた+とてもできた																																																																																																																		
	昨年末	9月	1月		昨年末	9月	1月																																																																																																															
1年		25.1%	28.6%	1年		93.3%	93.1%																																																																																																															
2年	21.4%	20.4%	20.0%	2年	92.6%	85.0%	93.0%																																																																																																															
とてもできた				できた+とてもできた																																																																																																																		
	昨年末	9月	1月		昨年末	9月	1月																																																																																																															
1年		29.6%	32.9%	1年		83.0%	84.0%																																																																																																															
2年	20.5%	22.1%	17.0%	2年	73.3%	76.5%	74.3%																																																																																																															
	昨年末	4月	6月	9月	12月																																																																																																																	
1年		50.8%	43.2%	52.6%	52.2%	12月 全学年 64.9%																																																																																																																
2年	50.0%	45.1%	54.5%	57.0%	64.4%																																																																																																																	
3年	60.6%	64.0%	67.1%	73.0%	78.8%																																																																																																																	
	昨年末	4月	6月	9月	12月																																																																																																																	
1年		33.8%	30.5%	43.1%	44.2%	12月 全学年 56.9%																																																																																																																
2年	42.1%	28.7%	44.6%	56.6%	54.6%																																																																																																																	
3年	50.4%	57.2%	62.2%	69.9%	72.4%																																																																																																																	
具体的な取組状況	<p>方策1では、互いに授業を見学する期間を設けるとともに、学校訪問等を利用して授業力の向上について学び合った。</p> <p>方策2・3では、各学年の進路学習係が中心となって面談の重点内容を企画し、担任を中心に面談を行っている。また、担任の面談だけでなく、教科担当者による面談も時期をとらえて行っている。また、各学年で課題の量など調整をはかり、生徒が主体的に学習に取り組めるように働きかけた。</p> <p>方策4について、昨年同様に成績評価業務を円滑かつ正確に行うために、成績評価業務を行う時間を設定するように特別授業を行った。</p>																																																																																																																					
評 価	B	100%には届かなかった。各学年1項目は微減したが、他の項目は増加した。	B	全体では①64.9%、②56.9%となり、ほぼ達成できた。4月と比べ、すべての学年で増加した。																																																																																																																		
学校関係者の意見	<p>「ウェルビーイング」という言葉を使うことで、物事がいろいろな意味に捉えられるようになってきている。もっと焦点を絞った表現でもよいのではないか。</p> <p>授業参加の自己評価についてだが、教員はどのような方法で生徒を授業に参加させるよう促すのか。双方向の授業にするには、学校として何らかの統一的な方針を打ち出した方がよいのではないか。</p> <p>事前事後の取り組みにおいて、2年生の9月が落ち込んでいるが、例年見受けられることなのか。</p>																																																																																																																					
次年度への課題	<p>達成目標の1②授業に関わる事前/事後課題への取り組みでは、2年の数値が減少した。学習内容が難しくなり、予習・復習や課題が思ったように取り組めていない生徒が増えたのではないかと考えられる。このような生徒にアプローチし、取り組めるように課題の調整や面談などを行わなければならない。また、生徒面談はおもに昼休みや放課後に行うことになる。生徒面談をきめ細かく行うことは重要であると考えているが、方策4の働き方改革を推し進めることによって、生徒との面談の時間を確保するとともに、教職員が授業改善等の自己研鑽の時間を確保できるようにしたい。</p>																																																																																																																					

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和7年度 富山高等学校アクションプラン-2-

重点項目	学校生活		
重点課題	基本的生活習慣の改善	健康的な環境づくりに努める知識や能力の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒手帳の改訂により服装および頭髪については「清潔端正」のみを示している。従来行っていた頭髪指導をなくしたが、服装・頭髪に乱れのある生徒も若干名いる。</li> <li>『生活あつての学習』を掲げ、規則正しい生活習慣の確立をめざしている。しかし、スマートフォン等を長時間使用し、学習や睡眠に支障をきたす生徒も見受けられる。</li> <li>自転車通学生が多く、推奨されているヘルメットの着用は少しずつ定着しているが、イヤホン装着運転をしている生徒も見られるため、意識改善をさせる指導をしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の清掃及び月例大掃除の指導を通して、環境を整えることの意義や協力の大切さ、効率的な時間の使い方等を理解し始めた生徒が増加傾向にあるが、以下のような課題がある。</li> <li>積極的に掃除をしたいが、掃除担当メンバーでどのように掃除をしたら効率よく綺麗に掃除ができるのかの共通理解ができていない。</li> <li>手際よく掃除を行うための道具の整備が整っていない。</li> </ul>	
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 服装・頭髪についてのルールを主体的に判断させるために、生徒会と教職員の対話の機会を年に2回以上設ける。</li> <li>2 スマートフォン使用時間(学習活動・連絡利用以外)の短縮等、自己の行動、生活をマネジメントする。また、個人情報情報のSNSへの安易な書き込み、著作権法違反、他への中傷記載などをなくす。</li> <li>3 交通ルール・交通マナーが遵守されるよう、自転車の安全運転については特に重点的に指導し、ヘルメット着用率を高めるために指導する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各掃除場所の掃除の手順書を作成し、それを基に掃除担当メンバーで効率よく綺麗にできる掃除方法の共通理解を持つ。</li> <li>掃除ロッカーの整備をする。</li> </ul>	
方 策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 年2回の生徒会と教員の対話や担任面接を通して、生徒が主体的に『清潔端正な服装・頭髪』について判断できるように促す。</li> <li>2 スマートフォンは学習活動・生徒間連絡に不可欠なものとなりつつあるが、生徒に対して講演会を実施するほか、教員・保護者が連携して生徒の現状把握に努め指導を行う。</li> <li>3 年間6回の校門指導・電停での校外指導など、さまざまな機会を通じて交通安全を啓蒙する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境整備委員会を中心に各掃除場所の手順書を作成し、効率よく綺麗にできる掃除方法の共通理解を図る。</li> <li>環境整備委員会を中心に各ロッカーに必要な掃除道具と数の一覧を作成し、誰もが掃除道具の把握ができる状態にする。</li> </ul>	
達成度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 年2回の生徒会と教員(生徒指導部・特活部)間の対話の機会を持つことができた。</li> <li>2 SNS安全教室の実施および全校集会を通して友人間のSNS上でのやり取りについて指導を行った。ネットパトロール等外部からの指摘はなかった。</li> <li>3 登下校時の自転車のトラブルは数件あった。ヘルメットの着用率はなかなか上がっていない。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 掃除の手順書のデータを整理し、共有できるようにした。</li> <li>② 生徒アンケートを実施し、生徒の意見を把握した。あわせて、各掃除ロッカーの用具点検と同時に、用具の要望を調査した。いくつか要望があったので、予算を考えて導入したい。</li> </ol>	
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 夏季服装選択制に関する内容が中心となったが、前期、後期ともに生徒会と教員間の対話をもった。服装選択制の試行期間を昨年よりも延長して実施した。現在、来年度に向けて内容の見直しを検討している。</li> <li>2 1学期に講師を招聘し、SNS安全教室(1学年対象)を開催し、ネットトラブルの予防について学んだ。全校集会でアプリを利用した生徒間のやりとりについてのマナーを伝えた。</li> <li>3 「さわやか運動」を含む年6回の校門指導や電停での校外指導を通して交通安全および挨拶、正しい服装について呼びかけた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 昨年度の環境整備委員会から作った掃除の手順書の不備を整え、前棟、後棟、理科棟、体育館、北辰会館にデータを分類し整理した。</li> <li>② 生徒アンケートや、環境検査でいただいたアドバイスをもとに、チームスで清掃について具体的に呼びかけた。また、掃除用具の点検を実施し、不備と追加用具の要望を聞いた。また、必要に応じて掃除ロッカーの位置を変更した。</li> </ol>	
評 価	B	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 服装選択制の試行について生徒が主体的に事後アンケート(生徒、教員、保護者)をとり、肯定的な意見の集約ができた。</li> <li>2 ネットトラブルについてはほぼ周知できていると思われる。</li> <li>3 ヘルメットの着用に対する意識の向上をはかる必要がある。</li> </ol>	B
学校関係者の意見	<p>生徒会からの提案で服装が選択できるようになったのは、卒業生としても良いことだと思っている。</p> <p>保護者の立場では、何が良いのか考える日々である。</p>		
次年度へ向けての課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒会が希望している服装選択制の期間の延長については今後も対話を通して検討していく必要がある。</li> <li>2 頭髪について「清潔・端正」の具体的な共通理解をはかる必要がある。</li> <li>3 スマートフォンの使用については生徒の状況把握にため、必要に応じた指導を継続していく必要がある。</li> <li>4 自転車に関する交通反則通告制度(「青切符」による取締まり)の適用について正しく理解させるとともに、ヘルメットの着用率が上がるように生徒会や規律厚生委員会とともに啓蒙活動をしていく必要がある。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①手順書については、データ活用を含めほぼ終了したと感じる。</li> <li>②要望のあった用具については、環境整備委員会で検討したい。</li> <li>③生徒が主体的に考え、協働して清掃ができるよう考えたい。</li> </ol>	

令和7年度 富山高等学校アクションプラン -3-

重点項目	進路支援	
重点課題	生徒一人ひとりの適性や能力を引き出す学習・進路指導	
現 状	1 本校では、週間課題を生徒に課しているが、自らの進路意識が薄く課題を「やらされている感」を持っている生徒が年々増加しており、課題提出率が低くなってきている。 2 本校では、生徒の進路意識の向上と学習意欲の喚起を目的に、折に触れて様々な進路行事を開催している。さらに外部講師を招き、1・2・3学年とも進路講演会を行っている。これらによってモチベーションを高める生徒がいる一方で、進路意識が高まらない生徒も散見される。	
達成目標	1 「自ら学ぶ集団」を作る進路指導の実現 ・課題の量・取り組み方の指導について教員側が工夫をこらし、生徒が自主的に取り組めるようにすること。 ・「10の力」のうち「主体的行動」の目標とする基準が3以上となる生徒の割合が80%以上となること。	2 進路目標(志望校)の設定 ・各種進路行事・外部講師を招いての進路講演会を通じて、「10の力」のうち「進路意識」の目標とする基準が3以上となる生徒の割合が80%以上となること。 ・目標とすべき志望校が、第2学年が終了するまでには決定していること。
方 策	1 教員側が各教科の指導において、いつどのような課題を与えてどんな力をつけるかを工夫し、生徒によく理解させ、自主的に課題に取り組ませる。 2 学年集会や面談等を利用し、進路を考える機会とする。 3 高い進路目標を持つ集団を、学習会や大学志望別集会などを通じて早期に形成させ、お互いに切磋琢磨できる環境を学校生活のさまざまな場面で育成するように努める。 4 学習支援講座や講演会、「進路のしおり」等を通して、生徒にとって必要かつ有意義な情報の提供ができるように努める。 5 社会人や大学生を招いたキャリア教育により、主体的に「学びに向かう力」を育むことができるように支援する。	
達成度	1について 12月のアンケート結果は1学年66.8%、2学年79.2%となった。4月当初では1学年60.8%、2学年65.0%であったので、各学年伸びが見られた。特に2学年で数字が伸び、目標の80%に近づくことができた。 3学期の調査までにさらに指導を継続していきたい。	2について 12月のアンケート結果は1学年47.3%、2学年56.5%となった。4月当初では1学年41.7%、2学年40.5%であったので、各学年伸びが見られた。特に2学年で大きく数字を伸ばすことができた。 3学期の調査までにさらに指導を継続していきたい。
具体的な取組状況	しゅうかん課題については、学習係を中心に生徒が主体的に取り組めるよう、探究的な考察が必要な問題を含めて提示するようにしている。目標を明確にさせ、提出を促すようにしている。 オープンキャンパスへの参加などから進路に関する情報収集を行い、自己理解を深める一助にさせる。	行事および講演会は、学年の要望を確認しながら、適切な時期に適切な内容のものを実施できるように心がけている。
評 価	C 評価の観点が昨年度と異なるが、2学年は目標にほぼ近づいている。	C 昨年度と評価の観点が違うこともあり、継続して様子を見たい。
学校関係者の意見	非常によい取り組みである。大学は将来につながる入り口であり、通過点である。「夢」や「大きな目標」をもって、チャレンジしてほしいと思う。 この先社会はどう変化するかわからない。先を見るのではなく、大学とは学問に邁進する場所なのではないか。	
次年度へ向けての課題	2学年は受験に向けた準備期を脱して、「当事者」に切り替わる時期である。当事者意識をもつことで自ら考え、取り組むことができるような支援を工夫する必要がある。また、1学年もまだ先のことという意識ではなく、早く準備に取り掛かるよう促していく。	大学進学を「出口」ではなく、その先にある社会への「入口」と考え、そのために、「何を、どうするか」を考える習慣を持たせる指導を続けたい。
(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)		

令和7年度 富山高等学校アクションプラン-4-

重点項目	特別活動の充実	
重点課題	「非認知能力(10の力)」を高める特別活動	
現 状	富山高校は、伝統的に教科指導だけでなく、特別活動が盛んにおこなわれてきた学校である。令和5年度には、生徒会則が見直され、生徒主体での組織運営をより志向したものとなった。また、体育大会や文化活動発表会、予餞会といった行事に生徒の意見をできるだけ反映させることを試みたり、生徒と教員が対話的に生徒心得の見直しを行うなど、伝統は今に受け継がれている。 こうした流れを継承しながら、令和6年度より明示された「10の力」のうち、特に①主体的行動、③規範意識、④対話、⑤協働、⑧創造性、そして⑩慎重敢為の6項目の伸長を図り、学校目標「人類の発展的未来に貢献する人間の育成」に資する環境を整えていくことが、今年度以降の課題となると考えられる。	
達成目標	1 「特色のあるホームルーム活動」を対話的に計画し、実施したクラスの割合100%	2 「10の力」のうち、①主体的行動、③規範意識、④対話、⑤協働、⑧創造性、⑩慎重敢為の伸長を実感する生徒がルーブリック段階評価で90%以上
方 策	1 前年度のホームルーム活動を踏まえて、投げかけを行う。 2-1 昨年度の生徒会則の変更に基づいた生徒会の運営を支援する。 2-2 また、文化活動発表会の普通科クラス展示について、総合的な探究の時間との学びの接続を模索し、充実を図る。 前提として、学校目標および「10の力」について、生徒と十分に共有を行う。また、教職員自身も生徒とともに「10の力」の伸長に努める。	
達成度	1 前年度に比べ各クラスで独自の企画を行い、特色のあるホームルーム活動を行っていた。生徒の企画力が感じられる内容であった。	2 ルーブリック段階評価での解答のうち、3と4を達成できた評価ととらえると学校全体の割合は、①78.0%、③75.4%、⑤78.0%、⑧49.6%、⑩54.1%となった。各数値とも学年が上がるごとに上昇する傾向が見られた。⑧創造性、⑨慎重敢為については、低い評価が出た。
具体的な取組状況	後期には、各クラスで1回の企画を実施させ、「テセレーション」や「自作かるた」など芸術的・文化的な企画も見られるようになってきている。	体育大会ではコロナ感染症によってレクレーション化した内容を、ブラッシュアップしながら以前の形に戻していくという難題を実行委員会が中心となって、良く吟味し実行してくれた。そこに新たに熱中症対策という難題が加わり、これに対しても教員と連携しながら工夫して取り組んでいた。
評 価	B 1・2年は、担任などと相談しながら独自の企画を行うようになってきたことは評価できる。しかしながら、3年生においては浸透しきれていない部分がある。	B 暑熱対策など、そもそも「10の力」を具現化して教員とともに取り組まないと体育大会は実施できないような状況下であるので、その中でよく工夫して実施できたことは収穫であった。しかし、創造性への自己評価が低い点は今後の課題とされる。
学校関係者の意見	体育大会や保育実習において、短時間の間で園児の心をつかみ、園児とのふれあいを心から楽しんでいる姿にはいつも感心する。時代もそうだが、教員や生徒も変わっているのに、この富山高校としての校風は変わらず続いている。校風が継承されていることを本当にうれしく思っている。	
次年度へ向けての課題	前期において、分掌行事がある程度入ってくると、継続性を持ってホームルームを実施することが困難になる。今年度の各クラスの取組みを全クラスで共有すべく、生徒会だよりなどを発行することによりなどで取組みを紹介することで他のクラスのモチベーションの向上に工夫しなければいけない。	既存の概念にとらわれることなく、まずは現在の行事の運営方法を客観的にとらえ、積極的な改善を図る姿勢が必要である。 各種行事において、生徒会会員が「自分たちで創り上げる富山高校」を感じ、能動的・主体的に運営される生徒会を目指していかなければならない。 また生徒からの意見を吸い上げるためには、実行委員会の取組みの経緯を、生徒会のすべての生徒が共有しなければならないことから、意見を集約できるようなシステムの構築は決して容易なことではないが、生徒議会の開催などを工夫しながら継続的に実践していかなければならない。

重点項目	探究活動の充実	
重点課題	探究的学習の深化と更なる進化	
現 状	本校には従来どおりの生徒の探究心に基づき教科・科目における理解をより深めることを目的に行う純粋な学問追究型の探究科学科の課題研究活動があり、その上、教科等横断的で地域課題や企業課題に取り組む普通科の探究活動が始まり、2つの流れができたかのように思える。しかし、どちらの活動もその指導において必要とされるのは、生徒の知的好奇心に基づき、「対話」と「協働」的な活動により「創造性」が刺激され、知識や情報を再構成して「新たな価値」へと繋ぐ力を育む教育課程である。	
達成目標	①「対話」と「協働」的な学びにより深められる「創造性」	②「考えるための技法」に関して、外部連携などによる新たな手法の考察と改善
	※单元ごと、及び成果発表後の自己評価 「富山高校で育む10の力」ルーブリックを活用し、「対話」と「協働」のルーブリック評価を1年生で平均値が3.0、2年生で平均値が3.3を目指す(最高値4)。	※「考えるための技法」に関して、探究科学科担当者は、各学期に1回以上考察し改善を図る。普通科担当者は、関係機関などと連携を1回以上図る。
方 策	1. 探究的な学びが自己の進路や社会活動に深く関わることを理解させると共に、他者との「対話」や「協働」によりその学びがより深まることを実感できるように指導を計画する。 2. 「探究基礎Ⅰ」「探究基礎Ⅱ」「理数探究」「総合的な探究の時間」及び「未来〇学」の指導内容・指導方法を十分研究し、授業担当者間で共通理解と綿密な連携を計りながら実施する。 3. 情報機器を適切に操作する技能を習得させ、取得した情報を扱うための「情報倫理」や探究的な活動を行う上での「研究倫理」を理解させる。 4. 指導に「考えるための技法」が取り入れられているか、担当者間で共有できる新たに効果的な技法がないかなど学期毎に確認する。	
達成度	【対話】4月→12月の変化: 1年生;2.77→3.00・2年生;2.97→3.09 12月の段階で、達成している。特に1年生は新しい環境に慣れるためや、人間関係を築くために意欲的に取り組んだと推測できる。特に2学期の文化活動発表会後のデータの伸び率が大きい。また、2学年は、12月の三校合同課題研究発表会や「未来〇学」の中間発表会のために意見のすりあわせが必要だったはずだが、③対話まではできるが、④お互いの「価値観をすりあわせて合意形成」まではできていないと考えた生徒が相当数いた。 【協働】4月→12月の変化: 1年生;2.78→2.85・2年生;2.71→2.96 両学年とも、4月からの推移より試算すると、3月までに目標値に到達する見込みはない。参考までに、現2年生の昨年度(1年次の)最後の【協働】の平均値は2.80であった。このことより調査時期はかなり結果に影響していると思われる。	探究科学科担当者: 外部連携を1、2学期で2回以上(学期に1回以上)の外部連携を行った割合は <b>69%</b> 指導者の教科的な特性や、生徒の課題設定にもよるため、回数にばらつきが見られた。1回以上の連携なら88%となる。  普通科担当者: 2学期までに外部連携を行った割合 <b>40%</b> 普通科は本年度より始まった授業であるため、指導の補助として、担当主務者より毎時、指導内容の確認事項(参考webサイトや活動指示など)が提示されたり、指導者を外部より複数回招聘したりしたため、担当者が校内で質問できる機会が複数あった。しかし、これは回数に含めていない。
具体的な取組状況	方策1. 本年度の文化活動発表会は、特活部と生徒会の協力により、2年生のみならず、まだ探究的な活動を始めたばかりの1年生も、「探究的な学習手法」でクラス発表を行った。各クラスとも、「対話」や「協働」が活発に行われ次の段階(「創造性」)へと繋がる研究内容となっていた。また、文化活動発表会の主担当となった生徒会執行部の活動指示も「10の力」を伸ばす一助となっていた。 方策1. 1年生、2年生ともに「未来〇学」では、教師は最初はファシリテーターとなるが、途中からは生徒の主体的活動の伴走者となるよう努めている。 方策3. 1年生の1学期に図書メディア部の協力により、集中的に情報機器の操作法や情報収集のあり方などを「未来〇学」で指導した。また、情報モラルやデータサイエンスに関しては、富山大学の先生より全体に指導をいただいた。 方策3. 生成AIに関する適切な利活用に関する講義と実習を2月27日に実施を予定している。このれにより、次年度の課題研究や「未来〇学」において、主体的でありながらより思考と教養を深めることができる課題設定の方法等を生徒が学習することを期待している。	方策2. 「探究基礎Ⅰ」では例年2学期以降理数の指導が人数に対して十分に進まなかったため、本年度は富山大学の高等学校DX加速化推進事業の支援により、12月のポスター発表までに8～10名の大学の先生や大学院生に3回以上のご指導をいただき、生徒は1年生としては非常に中身の深い探究活動を行うことができた。 方策2と4. 2学年「未来〇学」及び1学年「未来〇学」では、毎時の指導内容を主担当が提示し、指導の統一をはかり、情報共有を密にした。 方策2と4. 本年度は探究探究科学科の課題研究や普通科の総合的な探究の先進校指導方研究として、本校で高崎高校SSH担当者を講師にお招きし教職員全体研修をおこなった。また、三菱みらい育成財団の助成を活用し、同様の先進校視察及び研究として、総勢25名が県外研修を行ない、職員会議で情報共有を図った。
評 価	B	B
	「10の力」の12月時点の調査で、【対話】で③または④と返答した生徒の割合は1年生78.3%、2年生82.8%、同様に【協働】に関しては、1年生70.8%、2年生80.6%である。3年12月までには、③または④と答える生徒が100%近くを目指すとするれば、ほぼ達成したと判断できる。参考までに、集計データに基づく山型分布では、平均値3.3となるためには、9割近くの生徒が③又は④と回答する必要がある。また、平均値3.0となるためには、7割程度が③又は④と答える必要がある。	教員側は本年度は、先進的な指導法を研究することにも重点を置き校外研修に多くの教員(未来〇学担当者はほぼ全員)が参加し、各自がまず学んだ指導法をそれぞれで実践したため、外部連携をそれほど取る必要がなかったと思われる。
学校関係者の意見	外部連携とはどのような形で行っているものなのか。 未来〇学において、1人の教員が3つも4つも班を担当するには無理があるのではないか。 生徒が主体的に考えて行動する面は評価できる。	
次年度へ向けての課題	各自の教員研修で学んだことや技能の教員間での共有のあり方。 生徒の気質のようなものが当然ながら毎年変化してきているため、数値目標の設定や「10の力」のルーブリックの内容も3～5年に1度の割合で再検討していく必要があるように思える。	